

西東文庫企画展示

「イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本」を開催して

島根大学企画部図書情報課医学情報グループ 山崎 月子

1. はじめに

「西東文庫」は、Westernization of Japan（江戸から東京へ：西洋から見た日本の近代化）をテーマとした資料827冊からなるコレクションである（表1）。島根大学附属図書館医学図書館（以下、医学図書館とする）が島根医科大学附属図書館であった1988（昭和63）年、文部省（当時）大型コレクション¹⁾として収蔵され、その大部分は、1800年代後半から1900年代前半に出版されたもの



図1 西東文庫収蔵の『Japan and the Japanese: illustrated / Aimé Humbert 1874』より

である。Rutherford Alcock の『The capital of the Tycoon（大君の都）』、Ruth Benedict の『The chrysanthemum and the sword（菊と刀）』ほか、Lafcadio HearnやBayard Taylor、Mortimer Menpesなどの初版本も多い。資料のほとんどは、日本を訪れた西洋人が記述したもので、内容は歴史、地理、宗教、社会制度、風俗習慣など多岐にわたっている。美しいイラスト、版画等の挿絵や古写真を載せたものも多く、民俗学的にも大変興味深い資料と言えるだろう。

文庫名は、ゲーテの『West-östlicher Divan（西東詩集）』²⁾に因んで命名され、2009（平成21）年度からは附属図書館研究開発室³⁾の事業の一つとして、その調査・研究を行っている。これまでの主な活動は、表2のとおりである。

表1 西東文庫資料内訳

出版年		分類		本文言語	
年代	冊数	分野(日本十進分類)	冊数	言語	冊数
1850年代(嘉永3～安政6)	9	総記	2	英語	732
1860年代(万延元～明治2)	15	哲学・宗教	22	フランス語	48
1870年代(明治3～明治12)	31	歴史・地理・紀行	419	ドイツ語	16
1880年代(明治13～明治22)	23	社会科学	122	ポルトガル語	24
1890年代(明治23～明治32)	51	自然科学	4	日本語(英語併記)	3
1900年代(明治33～明治42)	150	技術・工学・工業	7	イタリア語	2
1910年代(明治43～大正8)	65	産業	9	ノルウェー語	2
1920年代(大正9～昭和4)	71	芸術	64		
1930年代(昭和5～昭和14)	121	語学	22		
1940年代(昭和15～昭和24)	59	文学	156		
1950年代以降(昭和25以降)	228				
年代不詳	4				

しかし、この「西東文庫」については、これまであまり公開してこなかったためだと思われるが、学内でもその存在を知っている人が少ない。そこで、「西東文庫」の資料価値を広く知ってもらうため、研究開発室の2018(平成30)年度の事業として、6月27日から7月17日まで島根大学附属図書館本館(以下、本館とする)1階展示室で、西東文庫企画展示会を開催した。本稿でその概要を報告する。

表2 研究開発室によるこれまでの活動

<p>1. 資料に記載されているイラストのデジタル化</p> <p><u>2010（平成22）年</u></p> <p>10誌・159点（主に旅行記や日本の風俗に焦点を当てた書籍）</p>
<p>2. 展示会等の開催</p> <p><u>2008（平成20）年</u></p> <p>島根県立図書館で開催された、島根県立図書館、松江市立中央図書館と附属図書館による3館合同企画展示会「アメリカのラフカディオ」において、パネルによって資料を紹介した。</p> <p><u>2010（平成22）年</u></p> <p>出雲市立出雲中央図書館において、出雲市立図書館、島根県立大学出雲キャンパス図書館と医学図書館の3館合同で講演会「異国から見たニッポンー西東文庫をもとにー」を開催し、資料の一般公開を行った。</p> <p><u>2010（平成22）年・2014（平成26）年・2015（平成27）年</u></p> <p>イラストのデジタル画像をパネルにまとめ、医学図書館の展示ウォールで展示した。</p>
<p>3. 紹介冊子の発行</p> <p><u>2010（平成22）年10月</u></p> <p>「島根大学医学図書館所蔵「西東文庫」ー「西洋から見た日本研究」貴重コレクションー」を発行した。（監修/執筆：常松正雄（島根大学名誉教授）、執筆協力：岩田淳（島根大学医学部教授）、編集：医学図書館）</p> <p><u>2015（平成27）年3月</u></p> <p>「西東文庫ー西洋人の見た近世・近代の日本」（Japan and the Japanese Illustrated by Aimé Humbert c1874のパネル展示のパフレット）を発行した。</p>

2. テーマと展示方法

展示のテーマは、「イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本」とした。テーマ設定の理由は、次の2点である。(1) これまでデジタル化してきた西東文庫所収のイラストを有効活用しなかったこと。(2) 西洋人の目で見た日本の近代黎明期の姿は、見る人の興味を引くのではないかと考えたこと。

展示方法は、資料の展示に加え、多彩なイラストが掲載されているイザベラ・バードの『Unbeaten tracks in Japan (日本奥地紀行)』(以下、『日本奥地紀行』とする)と、エミール・ギメの『Promenades Japonaises (日本散策)』(以下、『日本散策』とする)の一部をパネルで紹介した。

医学図書館には展示室がないことや資料内容から、松江キャンパスの本館展示室を会場とした。



図2 展示の様子

3. パネルで紹介した資料について

3.1 著者と著作について

パネルにした資料の著者とその内容を簡単に紹介する。

3.1.1 『日本奥地紀行』

イザベラ・バードは、1831年10月にイギリスのヨークシャで生まれた。1872年40歳の時に赴いたハワイ旅行がきっかけで、以来30年にわたり未開の地を求めて旅をし、旅行記を出版している。62歳のとき、女性としては初めて英国地理学会特別会員に選ばれている。

『日本奥地紀行』は、1878(明治11)年、バード(当時47歳)が初めて日

本を訪れた時、その様子を妹や知人に書簡で送り、後にそれをまとめて1880年に出版されたものである。『日本アジア協会誌』⁴⁾に掲載された論文の、「鬼怒川の流れに沿って進むコースは、まことに絵のように美しいが、困難な道である。外国人にもまた、日本人にもほとんど知られていない」という記述が日本への旅を決意させたと、バードは書いている。

時はまだ西南戦争が終わった翌年である。日本人ガイド伊藤鶴吉と二人で人力車と馬を使い、約3カ月に及ぶ旅であった。北海道へもわたり、アイヌ文化についても詳細に記録している『日本奥地紀行』はイギリスで評判になり、4版まで出版されている。

3.1.2 『日本散策』

著者のエミール・ギメは、1836年6月フランスのリヨンで生まれた。日本では仏像と東洋の宗教に関する書物の膨大なコレクションを集めている。現在、これらのコレクションが展示されているパリの国立ギメ東洋美術館⁵⁾はヨーロッパ最大のアジア芸術美術館となっている。また、ギメは東洋文化の普及に力を注ぎ、1879年には東洋語学校を設立し、日本からも留学生を受け入れている。

イラストを担当したフェリックス・レガメーは、1844年8月にパリで生まれた。『北斎漫画』などとの出会いにより日本文化に強い関心を抱いていた。1876年のフィラデルフィア万国博覧会でギメと出会い、記録画家として日本を訪れることになった。

『日本散策』は、1876（明治9）年、ギメがレガメーと共に訪れた日本各地の自然、風俗、寺社などについて記した紀行文で、1878年に出版された。彼らは、8月末に横浜に到着、東京、鎌倉、日光などへ出かけ、その後伊勢と京都に向かい、11月初めに出国し中国・インドを経て帰国している。

本書は日本散策シリーズの初編で、横浜、鎌倉、江ノ島の紀行文が収められている。なお、1880年刊行の第2巻⁶⁾は東京と日光を取り上げている。

3.2 文献調査

パネル作成にあたっては、高梨健吉訳『日本奥地紀行（平凡社（東洋文庫）：1973年）』と、時岡敬子訳『イザベラ・バードの日本紀行（講談社：2008年）』

を使用した⁷⁾。翻訳文の長さや読みやすさから、パネル本文への引用やイラストのキャプションには主に高梨訳を、一部時岡訳を採用することにした。『日本散策』の翻訳書は本館にも医学図書館にも所蔵がなかったため、新たに購入した。邦題は『1876ボンジュールかながわ；フランス人の見た明治初期の神奈川（青木啓輔訳、有隣堂；1977年）』である。

バードに関する文献⁸⁾は多い。彼女の成し遂げた旅に惹かれる人が多いからだろう。彼女の目的地は、当時の外国人の間で知られていたいわゆる観光地ではなかった。東北から北海道と近代化から取り残された地域を旅し、そこで見聞きたり調査したりした事柄をありのままに、そして緻密に記録している。

一方で、ギメの『日本散策』には、文明開化の影響をいち早く受けた東京、神奈川の「新しい日本」の様子が描かれている。日本に到着してからわずか3日目に出かけた、鎌倉への1泊2日の旅の記録であるが、ギメの洒脱な文章と、レガメーのイラストからは二人の高揚した気持ちが伝わってくる。

『日本奥地紀行』や『日本散策』には、現代においても外国人から賞賛されることの多い、「日本は非常に安全で安心な国であること」、「人々が勤勉で礼儀正しいこと」が随所に書かれている。反対に、今ではほとんど見られなくなった「入れ墨」、「着物がはだけほとんど裸に近い恰好」、「裸の子ども」、「子どもをおんぶする習慣」などが、特筆すべきこととして記録されている。また、革命ともいえるような明治維新を庶民がしなやかに受け止め、それまでと変わらない生活を営んでいたこともわかり、庶民の歴史への興味をそそる。

4. 展示内容

4.1 パネル

パネルは、滞在地ごとに解説すると膨大な量になるため、著者の日本に対する印象を本文から引用することで、日本の姿を読み取ってもらえるようにした。また、社会制度等の解説はコラムとして挿入することにした。イラストの多くは既にデジタル化していたが、画質の良くないものは、医学部の総合科学研究支援センターのスキャナを借用し、新たにデジタル化した。

パネルの構成及び内容は以下のとおりである。太字はパネルの見出しである。

(1) 西東文庫とは…

西東文庫の概要

(2-1) イラストでたどる西洋人の見た明治初期の日本

パネルで取り上げる図書の概要

(2-2) 西洋人の日本への興味

解説とコラム

[コラム1] お雇い外国人

[コラム2] 主なお雇い外国人

[コラム3] ジャポニズム

(3)～(4) 『Unbeaten tracks in Japan』 (日本奥地紀行)

①イザベラ・バードについて

②旅行地と出版された書籍⁹⁾

③バードの旅 ルートと携帯品などの解説とコラム

[コラム4] プラントン氏日本大地図・サトウ氏の英和辞典

④バードがみた日本

安全で美しい日本、子供への情愛、奥地の人々の生活、蝦夷でのアイヌの人々の印象について

(5)～(9) バードの見た風景 (図3-1参照)

各地の景色や風俗のイラスト (22点) とコラム

・富士山・日光東照宮

・奥地の風景：新潟の街路と運河、越後地方の流れ灌頂、秋田黒石の農家

・運輸：人力車、車夫、大八車、馬子、飛脚

・金谷邸 (日光の宿屋)

・庶民の生活：横浜の屋台、粕壁の茶屋、子どもをおんぶする女性、茶屋の中居、夏と冬の格好、蓑を着たバード

・蝦夷：アイヌの人々や家、倉など

[コラム5] 宿制度と陸運会社

(10)～(11) 『Promenades japonaises』 (日本散策)

①エミール・ギメについて (イラスト1点)

②フェリックス・レガメーについて

③ギメとレガメーがみた日本 (イラスト3点)

④旅程

(12)～(15) ギメが記録し、レガメーが描いた風景 (22点) (図3-2参照)

・運輸：人力車、車夫、サンパン、馬子

・湘南の宿：宿屋の女中、足を洗ってもらうギメ、女中に起こされるレガメー

・高い：湘南の茶屋、江ノ島で貝細工の絵を作っている女性、江ノ島の茶店

・庶民の生活：裸で行水、髪を結う、子どもをおんぶする女性と子ども、芝居小屋、お辞儀、横浜の港座 (歌舞伎)、釣りをする人、江ノ島の望遠鏡

4.2 展示図書

展示図書は、できるだけ幅広い分野からイラストや写真が豊富な図書を選定した。選定には、2010（平成22）年に発行した「西東文庫」の紹介冊子¹⁰にまとめられているコレクションの紹介や、医学図書館職員によって作成されていたイラストや写真についての解説が役立ち、文学作品や辞書、旅行案内も含め71冊を選定し展示することができた。特に紹介したい主要図書24冊には、図書の内容と著者に関する事項をまとめたキャプションを作成し、図書に併せて展示した。また、チェンバレンの旅行案内には、山陰道の項目があり本文を拡大コピーして紹介した（図4）。

初日に来場された、本学エスチュアリー研究センターの齋藤文紀先生から、『Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japans』のvol.2を所蔵しているとの連絡をいただいた。西東文庫にはvo.1しか所蔵していない図書であったので、ご厚意により借り受けて追加展示させていただくことになった（図5）。

展示資料は全てオリジナルで古いため、表紙がはずれたり、とじが緩くなったりしているものも多く、その取扱いには注意を払う必要があった。手に取って見てもらえるようにしたかったが、展示室に職員が常駐できないため、展示ケースの中にイラスト部分が見えるように見開きで展示した。

展示資料は別表のとおりである。原書の翻訳図書がある場合には邦題を記

Kizuki (*Inns, Inaba-ya, Oshima-ya*), a quaint little town at the base of Tabiishi-yama, is famed throughout the length and breadth of Japan for the **Great Temple of Izumo** (*Izumo Ō-yashiro*), which is dedicated to the god Ōnamuji and disputes with Ise the honour of being the most ancient and venerable shrine of the Shintō

図4 『A handbook for travellers in Japan. 3rd.ed./Chamberlain B. H.1891』より

「杵築」部分を拡大したもの。出雲大社の記述がある。

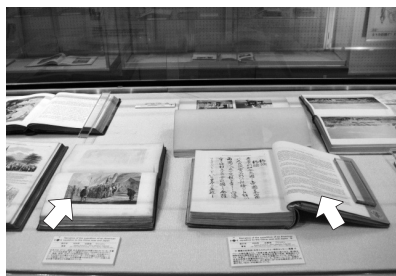


図5 『Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japan』左が西東文庫のvol.1。右が齋藤先生からお借りしたvol.2。日米和親条約のアメリカ側の写しが収蔵されている。

載し、図書館に所蔵しているかどうかがわかるようにした。原書タイトルの和訳は附属図書館研究開発室で「西東文庫」をご担当いただいている、医学部の岩田淳教授にアドバイスをいただいた。

また、展示資料への理解を深めてもらうため、翻訳図書や関連図書67冊を展示室前に展示し、貸出ができるようにした。期間中の貸出冊数は9冊であった。

5. アンケートより

入場者数は、市民や教職員、学生など600人であった。来場者数は、展示室入口に設置した簡易アクセスカウンターで取得した。

また来場者にはアンケートを実施し28名から回答を得た。結果は、図6～図9のとおりである。

回答者は、教職員・学生と学外者の割合はほぼ半々であった。50代以上はほとんどが学外者であった。展示会を知るきっかけになったのは、学内者は、ほぼ学内の掲示であったが、学外者はテレビ・ラジオ・新聞の報道で知った人が多かった。展示内容の満足度は、「大変良かった」と「良かった」をあわせて100%であった。

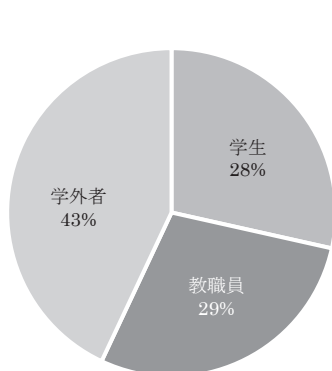


図6 回答者の区分

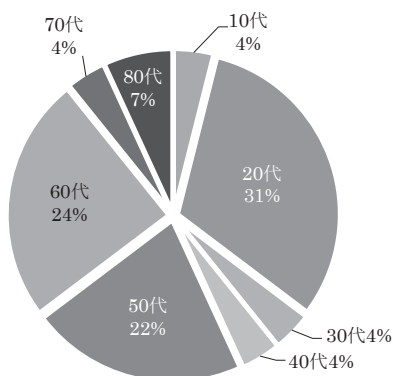


図7 回答者の年代

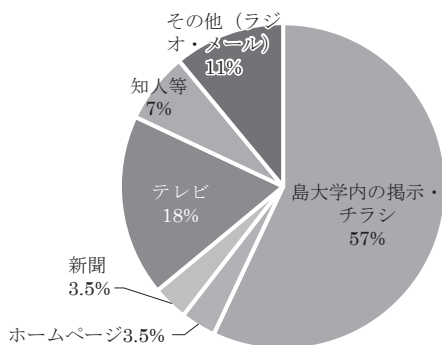


図8 展示会を知るきっかけ

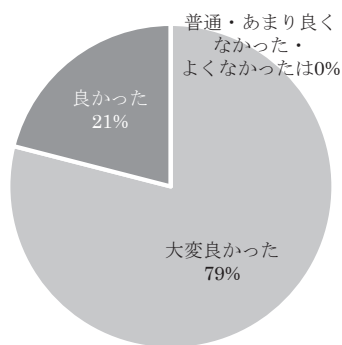


図9 展示内容の満足度

以下、アンケートの自由記述から、“印象に残った展示”と“展示会への意見・感想”を抜粋して記す。

印象に残った展示

イザベラ・バードに関するパネル展示が印象に残ったとの回答が非常に多かった。他に、チェンバレンの旅行ガイドに関心を寄せた人も多かった。

- ・イザベラ・バードの紹介。名前しか知らなかったが、アイヌとの交流もあったと知り、知的好奇心の大きさに感心した。
- ・イザベラ・バードのパネル展示。スケッチが印象的であった。
- ・バードを目的にしてきて、展示に満足した。チェンバレンとハーンの関係を知っていたが、前者が山陰について記述していたのは知らなかった。
- ・チェンバレンの明治旅行案内記。山陰や中国地方の紹介文を興味深く読みました。
- ・外国から見た日本の風景、日本人の様子を描いたイラスト

展示会への意見・感想

理解しやすかった、興味深かったとの感想を多く寄せていただいた。これをきっかけに関連文献を読みたくなった、バードの旅をたどってみたいとなったとの感想を寄せた人もいた。展示内容から当時の日本の様子を伝えることができたのではないと思う。また、西東文庫資料の存在を知らなかつ

た方からは驚きの声と、今後の活用についてのご意見をいただいた。なお、展示会場に椅子を、というご意見が寄せられたのちは、本館職員により休憩用の椅子が置かれた。

- ・総合的に収集した資料がよく整理された展示となっていて理解しやすかった。
- ・良かったです。展示場に椅子が一つでもあれば。老体には休憩が必要。
- ・サトウ、イザベラ・バード、タウンゼント・ハリスの本を原書で読んだことがあり、大変興味深い展示でした。
- ・展示がとても興味深かったので、訳本等の関連文献も読んでみたくなりました。
- ・展示された本にあるルートで旅行してみたいと思いました。
- ・外から見た日本がどのように見えていたのか視覚的に分かった。
- ・昔の日本人がとても大らかで平和な暮しをしていたことに驚かされた。
- ・西洋人から見た昔の日本の様子がよくわかり、興味深く見ることができました。
- ・「日本の外側から見た日本」が書き留められた図書がこんなにも多く、細部にわたって描かれているのが面白かったです。教育分野について自分でも調べてみようと思いました。
- ・恥ずかしながら、西東文庫の存在を初めて知りました。素晴らしいコレクションなので、ハーン研究会などでもっと調査、活用していただけたらと思います。
- ・今回、西東文庫を初めて知りました。このような貴重な資料をこれからも公開していただけると喜びます。

6. おわりに

今回の展示会は、医学図書館とその資料をアピールするよい機会になった。しかし、展示できたのは全資料827冊の内のごく一部でしかない。「西東文庫」の全容を紹介する展示会を開催することも重要だが、今回のように分野ごとに小分けして資料を紹介するような企画も意義があると考え。引き続き検討していきたい。また、書庫見学や、図書館広報誌での資料紹介などによって「西東文庫」の周知に努める必要もある。併せて、劣化の進んだ資料の修繕を進めることも課題である。

今回の展示会を契機に、「西東文庫」が研究の対象や教材として活用されることを期待している。

注

- 1) 旧文部省が1978(昭和53)年から、文部科学省となった翌年の2002(平成14)年まで、学内・外の研究者の共同利用の便に供するために、外国図書、人文社会系特別図書、自然科学系図書購入のために行った予算措置である。医学図書館には、西東文庫のほかに、厚生省人口動態統計、解剖学教育ビデオ集成176巻がある。
- 2) 1819年に刊行されたドイツの詩人ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ70才の時の代表的詩集である。東洋オリエントに憧れ、人間の自然としての姿、文明に汚れていない世界に思いを馳せて書かれた。
- 3) 専門的な見地から図書館に関する事項について研究開発、助言を行う目的で2006(平成18)年に設置された。2017(平成29)年度~2018(平成30)年度は、2名の顧問、7名の併任室員を委嘱している。
- 4) 1872(明治5)年に創立された日本最古で国際的にも著名な日本・アジア研究の学術団体である。
- 5) ギメが1879年にリヨンで開館。1889年にパリに移設して正式にギメ美術館が誕生した。1945年にルーブル美術館の東洋部のコレクションがギメ美術館に移され、アジア以外で最大の東洋美術コレクションを誇る。
- 6) 第2巻の翻訳図書は本館に所蔵している。
・エミール・ギメ/フェリックス・レガメー著『ギメ東京日光散策/レガメ日本素描紀行』。雄松堂出版。1983年
- 7) 翻訳図書には、1880年に出版された初版本と、1885年に半分以上が削除され出版された普及版がある。初版本は、①時岡敬子訳のほかに、②金坂清則訳注『完訳日本奥地紀行 1-4』。平凡社。2012年-2013年がある。普及版には、③高梨健吉訳のほか、④金坂清則訳『新訳日本奥地紀行』。平凡社。2013年、⑤楠家重敏他訳『バード日本紀行』。雄松堂出版。2002年、⑥高畑美代子訳『イザベラ・バード「日本の未踏路」完全補遺』。中央公論事業出版。2008年がある。⑥以外は本館又は医学図書館に所蔵している。
- 8) 図書は本館又は医学図書館に所蔵している。
①宮本常一『イザベラ・バードの旅:「日本奥地紀行」を読む』。講談社。2014年、
②伊藤孝博『イザベラ・バード紀行:「日本奥地紀行」の謎を読む』。無朋舎出版。2010年、
③赤坂憲雄『イザベラ・バードの東北紀行:「日本奥地紀行」を歩く〈会津・置賜篇〉』。平凡社。2014年、
④パット・バー『イザベラ・バードー旅に生きた英国婦人』。講談社。2013年、
⑤加納孝代。イザベラ・バード『日本奥地紀行』—19世紀最大の女性旅行家イザベラ・バード。国文学解釈と鑑賞。1995。60(3)。

pp114-123、⑥小野崎晶裕. イザベラ・バード試論—パット・バー著『ある女性の奇妙な人生』に寄せて. 作新学院大学女子短期大学部紀要. 2006. 29. pp76-49、⑦置賜文化フォーラム (<http://okibun.jp/bird/>、アクセス2018年10月31日)

9) 1875年～1899年に8冊出版されている。

- ①The Hawaiian archipelago (イザベラ・バードのハワイ紀行). 1875年
- ②A lady's life in the Rocky Mountains (ロッキー山脈踏破行). 1879年
- ③Unbeaten tracks in Japan (日本奥地紀行). 1880年
- ④The golden Chersonese and the way thither (マレー半島の旅). 1883年
- ⑤Among the Tibetans (チベットの人々の中で). 1894年
- ⑥Journeys in Persia and Kurdistan, including a summer in the Upper Karun region and a visit to the Nestorian rayahs (ペルシアとクルジスタンの旅). 1891年
- ⑦Korea and her neighbours (朝鮮奥地紀行). 1898年
- ⑧The Yangtze Valley and beyond (中国奥地紀行). 1899年

10) 表2の3を参照

別表 西東文庫企画展示会 展示図書リスト

No	編著者名	書名	翻訳図書名 (*は本館**は医学図書館に所蔵) 翻訳図書が出版されていないものは、[] に邦訳を記した
1	—	The illustrated London news : January to June 1853. (vol.22) London: William little. 1853.	*描かれた幕末明治: イラストレイテッド・ロンドン・ニュース (雄松堂書店)
2	Satow Ernest Mason	The Silesian Loan and Frederick the Great. Oxford: Clarendon. 1915	[シレジアの借款とフリードリヒ大王]
3	Bird Isabella L.	Unbeaten tracks in Japan : an account of travels on horseback in the interior, including visit to the aborigines of Yezo and the shrines of Nikko and Ise. vol. 1 London: John Murray. 1880	*日本奥地紀行 (平凡社)
4	Bird Isabella L.	Unbeaten tracks in Japan : an account of travels on horseback in the interior, including visit to the aborigines of Yezo and the shrines of Nikko and Ise. vol. 2 London: John Murray. 1880	
5	Bousquet Georges	Le Japon de nos jours et les échelles de l'Extrême Orient: ouvrage contenant trois cartes. vol.1 Paris: Hachette, 1877	*日本見聞記: フランス人の見た明治初年の日本 (みすず書房)
6	Bousquet Georges	Le Japon de nos jours et les échelles de l'Extrême Orient: ouvrage contenant trois cartes. vol.2 Paris: Hachette, 1877	
7	Eden Charles H.	Japan : historical and descriptive : revised and enlarged from "Les voyages célèbres". London: Marcus Ward. 1877	[日本: その歴史と現在]
8	Griffis William Elliot	The Mikado's Empire. York: Harper & Bros. 1876	*ミカド: 日本の内なる力 (岩波書店)

No	編著者名	書名	翻訳図書名（*は本館**は医学図書館に所蔵）翻訳図書が出版されていないものは、[] に邦訳を記した
9	文部省	History of the Empire of Japan / compiled and translated for the Imperial Japanese Commission of the World's Columbian Exposition, Chicago, U.S.A., 1893. Tokyo: Dai Nippon Tosho. 明治26 [1893]	[日本帝国の歴史]
10	Holland Clive, Smyth Montagu	Old and new Japan. London: J.M. Dent. 1907	[日本今昔]
11	Howard Alexander, Newman Ernest	The menacing rise of Japan : ninety years of crafty statesmanship in pictures. London: G.G. Harrap. 1943	[日本の脅威：90年にわたる巧妙な政治手腕]
12	Howard Ethel	Japanese memories. London: Hutchinson. 1918	*英国家庭教師夫人の回想：明治日本見聞録（講談社）
13	Knox George William	Imperial Japan : the country & its people. London: G. Newnes. 1905	[日本帝国－国と人々]
14	Laurie André, Régamey Félix	Autour d'un lycée Japonais. Nouvelle Edition. Paris: Hetzel. [18-]	[日本のリセを巡って]
15	Menpes Mortimer, Menpes Dorothy	Japan : a record in colour. London: A. & C. Black. 1901	[日本絵画紀行]
16	宮川 益治	Life of Japan. New York: Baker & Taylor. c1907	[日本の生活]
17	Moore Herbert	A Japanese family : a tale. Nantwich: A.E. Hill. 1903, 1905	[ある日本人の家族：ある物語]
18	Norman Henry	The real Japan : studies of contemporary Japanese manners, morals, administration, and politics. New York: Charles Scribner's Sons. 1908	[ほんとうの日本：現代日本のマナー、行政と政治に関する研究]
19	小川 一眞, Murdoch James	Sights and scenes on the Tokaido. M.A. Tokyo: [s.n.], 1893	[東海道名所案内]
20	Ponting Herbert G.	In lotus-land Japan. London: Macmillan. 1910	英国人写真家の見た明治日本－この世の楽園・日本（講談社）
21	Ponting Herbert G., 小川 一眞	Japanese studies. Yokohama: Kelly Walsh. c1906	[日本の研究]
22	Reed Edward J.	Japan : its history, traditions, and religions with the narrative of a visit in 1879. 2nd ed. vol.1 London: J. Murray. 1880	[日本：その歴史・伝統・宗教]
23	Reed Edward J.	Japan : its history, traditions, and religions with the narrative of a visit in 1879. 2nd ed. vol.2 London: J. Murray. 1880	
24	Satow Ernest Mason	A diplomat in Japan : the inner history of the critical years in the evolution of Japan when the ports were opened and the monarchy restored, recorded by a diplomatist who took an active part in the events of the time, with an account of his personal experiences during that period. London: Seeley, Service. 1921	*一外交官の見た明治維新（岩波書店）

No	編著者名	書名	翻訳図書名 (*は本館**は医学図書館に所蔵) 翻訳図書が出版されていないものは、[] に邦訳を記した
25	Scidmore Eliza Ruhamah	Jinrikisha days in Japan. New York: Harper & Brothers . 1900	日本・人力車旅情 (有隣社)
26	Sladen Douglas, Lorimer Norma	The peace edition of More queer things about Japan : to which are added a précis of the terms of peace, and a skeleton history of the entire war, specially compiled for this edition, entitled "The War at a glance". London: Anthony Treherne. 1905	[風変わりな日本 : 「平和」編]
27	Statler Oliver	The black ship scroll : an account of the Perry expedition at Shimoda in 1954 and the lively beginnings of people-to-people relations between Japan & Americ. Weathermark ed. Tokyo: John Weatherhill. 1964	[黒船絵巻]
28	Steger Friedrich, Hintze Eduard, Wagner Hermann	Das alte und das neue Japan, oder die Nippon-Fahrer : in Schilderungen der bekanntesten alteren und neueren Reisen. 3., bis auf die Gegenwart ergänzte Ausg. Leipzig: Verlag von Otto Spamer. 1874	[日本今昔]
29	Taylor Bayard, Griffis William Elliot	Japan in our day. New York: Charles Scribner's Sons. 1893, c1892 (Illustrated library of travel.)	[現代の日本]
30	Tristram H.B., Whympe Edward	Rambles in Japan : the land of the rising sun. London: Religious Tract Society. 1895	[日本そぞろ歩き - 日の登る国]
31	Worswick Clark	Japan, photographs, 1854-1905. London: H. Hamilton. 1980	[写真で見る日本]
32	Chamberlain Basil Hall, Mason W.B.	A handbook for travellers in Japan. 3rd ed. London: J. Murray. 1891	*チェンバレンの明治旅行案内 (日本見聞記シリーズ) (新人物往来社)
33	Griffis William Elliot	Townsend Harris, first American envoy in Japan. Boston: Houghton, Mifflin. 1895	[初の日本大使 : タウンゼント・ハリス]
34	Harris Townsend, Cosenza Mario Emilio	The complete journal of Townsend Harris : first American consul and minister to Japan. Rev. ed. Rutland, Vt.: Tokyo: C.E. Tuttle. 1959	*日本滞在記 (岩波書店)
35	Hawks Francis L. Perry Matthew Calbraith	Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japan : performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of Commodore M.C. Perry, United States Navy, by order of the Government of the United States Washington: Published by order of the Congress of the United States, Beverley Tucker, Senate Printer. 1856	*日本遠征記 (岩波書店)
36	Perry, Matthew Calbraith, Pineau Roger	The Japan Expedition, 1852-1854 : the personal journal of Commodore Matthew C. Perry. City of Washington: Smithsonian Institution Press. c1968 (Smithsonian Institution publication.4743)	*ペリー日本遠征日記 (雄松堂出版)
37	Taylor Bayard	A visit to India, China, and Japan, in the year 1853. New York: G.P. Putnam. 1855	[インド・中国・日本旅行記]

No	編著者名	書名	翻訳図書名 (*は本館**は医学図書館に所蔵) 翻訳図書が出版されていないものは、[] に邦訳を記した
38	Alcock Rutherford	The capital of the Tycoon : a narrative of a three years' residence in Japan. vol. 1 London : Longman, Green, Longman, Roberts, & Green, 1863	*大君の都 : 幕末日本滞在記 (岩波書店)
39	Alcock Rutherford	The capital of the Tycoon : a narrative of a three years' residence in Japan. vol. 2 London : Longman, Green, Longman, Roberts, & Green, 1863	
40	Chamberlain Basil Hall	Things Japanese : being notes on various subjects connected with Japan for the use of travellers and others. 2nd ed., rev. and enl. London: K. Paul, Trench, Trubner. 1891	*日本事物誌 (平凡社)
41	Guimet Emile, Régamey Félix	Promenades japonaises. Paris: G. Charpentier editeur. 1878	**1876ボンジュールかながわ (有隣社)
42	Hartshorne Anna C.	Japan and her people. vol. 1 Philadelphia: John C. Winston. c1902	[日本とその住民]
43	Hartshorne Anna C.	Japan and her people. vol. 2 Philadelphia: John C. Winston. c1902	
44	Finck Henry T.	Lotos-time in Japan. New York: C. Scribner's Sons. 1895	[日本での至福の時]
45	Humbert Aimé, Hoey Cashel, Bates Henry Walter	Japan and the Japanese : illustrated. London: Richard Bentley, 1874	絵で見る幕末日本 (講談社)
46	城谷 黙	Mock Joya's Things Japanese. 5th revised ed. Tokyo: Tokyo News Service. 1964	[モック・ジョーヤの日本考]
47	Knollys Henry	Sketches of life in Japan. London: Chapman. 1887	[日本での生活のスケッチ]
48	Batchelor John	The Ainu of Japan : the religion, superstitions, and general history of the hairy aborigines of Japan. London: Religious Tract Society. 1892	[日本のアイヌ族]
49	Ayrton M. Chaplin, Griffis William Elliot	Child-life in Japan, and Japanese child stories. Boston: D.C. Heath. c1901	[日本の子どもの暮らしと、日本の子どもの物語]
50	Mitford, Baron	Tales of old Japan. 2nd and cheaper ed. London: Macmillan. 1874	*日本おとぎ話集 (大阪教育図書)
51	Benedict Ruth	The chrysanthemum and the sword : patterns of Japanese culture. Boston: Houghton Mifflin. c1946	*菊と刀 : 日本文化の型 (社会思想社)
52	Morse Edward S.	Japanese homes and their surroundings. London: Sampson Low, Marston, Searle, and Rivington. 1886	*日本人の住まい (八坂書房)
53	Alcock Rutherford	Art and art industries in Japan. London: Virtue. 1878	[日本の芸術と芸術産業]
54	Régamey Félix	Japan in art and industry : with a glance at Japanese manners and customs. New York: G.P. Putnam's Sons. 1893	[日本の芸術産業]

No	編著者名	書名	翻訳図書名 (*は本館**は医学図書館に所蔵) 翻訳図書が出版されていないものは、[] に邦訳を記した
55	Conder Josiah	The flowers of Japan and the art of floral arrangement. Tokyo: Hakubunsha. 1891	[日本の花と生け花]
56	Sadler A.L.	The art of Flower arrangement in Japan : a sketch of its history and development. New York: Dutton. 1933	[日本の生け花]
57	Chamberlain Basil Hall	A handbook of colloquial Japanese. 4th. ed., rev. London: C. Lockwood. 1907	日本口語文典 (おうふう)
58	Hepburn James Curtis	A Japanese-English and English-Japanese dictionary : abridged by the author. 2nd ed. rev. and enl. Tokyo: Maruya. 1887	[和英語林集成 : 縮約再版]
59	Hepburn James Curtis	A Japanese and English dictionary, with an English and Japanese index. London: Trubner. 1867	*和英語林集成 (港の人)
60	Satoh Henry	Anglo-Japanese conversation lessons. 26th ed. Tokyo: H. Hayashi. 1899	[日英会話レッスン]
61	Aston William George	A history of Japanese literature. London: William Heinemann. 1899 (Short histories of the literatures of the world.6)	*日本文学史 (金港堂)
62	Fenollosa Mary McNeil	Blossoms from a Japanese garden : a book of child-verses. London: William Heineman. 1913	[日本庭園の花 : 子供の詩]
63	Ballard Susan	Fairy tales from far Japan : translated from the Japanese. London: Religious Tract Society. [1898]	[日本のおとぎ話]
64	Ozaki Yei Theodora	The Japanese fairy book. Westminster: Archibald Constable. 1903	[日本のおとぎ話]
65	Watanna Onoto, Sano Kiyokichi	Daughters of Nijo : a romance of Japan. New York: Macmillan. 1904	[二条の姫君]
66	Watanna Onoto, Yeto Genjiro	A Japanese nightingale. New York: Harper & Brothers Publishers. 1901	[日本鶯]
67	Watanna Onoto, Sano Kiyokichi	The heart of hyacinth. New York: Harper & Brothers. 1904	[お蘭の心]
68	Hearn Lafcadio	Kwaidan : stories and studies of strange things. Copyright ed. Leipzig: Bernhard Tauchnitz. 1907 (Collection of British authors.v. 3987)	*怪談 (国書刊行会ほか)
69	Loti Pierre	Madame Chrysantheme. Paris: Calmann-Levy. [19-]	*お菊さん (岩波書店)
70	Loti Pierre, Plimsoll S. R. C., Menpes Mortimer	Madame prune. London: T. Werner Laurie. 1919	[お梅さん]
71	Loti Pierre	La troisieme jeunesse de Madame prune. Paris: Calmann-Levy. 19-	お梅が三度目の春 (白水社)